

平成 17 年度プリムラ利用状況 平成 17 年 4 月 1 日～平成 18 年 3 月 31 日

平成 17 年度プリムラ利用状況													
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
開設日	20	19	22	20	18	20	20	20	20	18	20	22	239
補助	41	39	58	59	25	57	54	41	70	55	60	42	601
自主	8	6	5	11	6	5	3	1	3	1	4	1	54
合計	49	45	63	70	31	62	57	42	73	56	64	43	655

4 月からプリムラは練馬区の委託補助を受けられ、保育利用料が 1 日 2 0 0 0 円になりました。新規登録児が増え、練馬区内の遠い地域からの利用が多くなりました。おたふくかぜ、嘔吐下痢症、高熱のお子様も多い月でした。隔離保育の必要が多い状況でした。

5 月は水痘の兄弟発生もあり連続しての利用がありました。当然隔離保育も多くなりました。更に 4 月、5 月はプリムラの利用問い合わせも多くなり、また他施設からの見学、見学兼 1 日実習の保育士の方もいました。練馬区補助対象児は定員 4 名で満員になる事もあり、時にご利用をお断りする事もありました。

6 月はヘルパンギーナ、水痘、おたふくかぜ、胃腸炎、手足口病などが多くなりました。隔離が必要なお子様は一人 1 部屋を使用しました。そのために 1 対 1 保育が必要でした。1 日に 6 人利用の日もありました。今月も数名の方は人手と保育スペースが不足のためにお断りする事もありました。

7 月 17 日、18 日は岡山で開催された第 15 回全国病児保育研究大会にプリムラ看護師、保育士の 3 人で参加しました。全国の病児保育施設からの報告、講師の先生方の講演、研修に参加してきました。全国各地の病児保育に携わっている方々の日々の熱意とご苦労をひしひしと感じました。また、佐々木正美先生のご講演は日々感じている事柄の明確な言葉での解説があり、先生の優しいお人柄が感じられる感銘深い内容でした。「家庭の中に安らぎがある限り、子供は困難に立ち向かえる」と暖かい家族の大切さと、「親の世間体を優先して子供を 2 の次にすることは子供に深い傷を負わせることになる」と言う事を改めて確信しました。

7 月のプリムラは相変わらず夏風邪、手足口病、ヘルパンギーナ、おたふくかぜ、水痘など発熱、感染症が多くスタッフと部屋のやりくりが大変でした。明らかな感染症は隔離室での保育を、また発熱児と熱がない子供はなるべく隔離して保育をしました。利用者が練馬区定員 4 名以上の 6 名になる事もありましたが、利用料金は皆

同じにしています。

(H17. 8. 1)

8月 プリムラは8月15日～19日の5日間夏休みでした。

昨年もお盆前後は利用児が殆どなく、今年も夏休み前後2～3日はやはり利用児0の日がありました。夏休みで田舎に帰ったり、海や山へ行ったりして皆元気だったんですね。8月最後の週は少しずつ風邪も多くなり発熱でのお預かりが多くなりました。子供たちも夏休み明け保育園に戻り夏疲れが出ている様です。

9月 朝夕涼しくなり風邪症状のお子様が多くなりましたが、発熱は1日～2日でおさまり、翌日の予約をしても当日のキャンセルが多い月でした。連日の利用は発熱の続く突発性発疹や流行性耳下腺炎でした。年齢層はやはり1歳前後～2歳が多く、おたふくなどの感染症は3歳～5歳と高くなっています。

10月は例年になく暖かい10月でした。運動会の練習疲れで喘息気味、下痢気味の3歳～5歳児も利用しましたが、おたふく、水痘などの感染症はなく、殆どが所謂風邪症状の発熱児でした。また0歳児も多くなりました。0歳児は生活のリズムが1歳児に比べて規則的でなく、お昼寝も一律ではなく人手がかかります。利用児は平均すると1日4名に満たない状況ですが、病児保育室の特性で1日6名～7名の利用もあり、当日お断りした場合もありました。10月の保育室はスタッフ手作りのハロウィーンのオレンジかぼちゃなどの飾り付けをしていました。

11月は水痘、溶連菌感染症、りんご病、ウィルス性胃腸炎など小児科外来は賑わっていましたが、プリムラは比較的落ち着いていました。ただ前の日少し具合が悪いと心配でプリムラの予約を入れ、翌日キャンセルになる事がおおくなりました。キャンセル待ちの場合は、キャンセルを待たないで結局利用せず何とか家族で面倒を見ることも有りました。

また予約が多くなるに従い、電話連絡なしのキャンセルのことも数件ありました。

保育室は12月になりクリスマスの飾り付けをして子供たちを迎えています。



12月は水痘、流行性耳下腺炎の感染症も相変わらずでした。嘔吐下痢症も多く、朝から、または昨晩から吐いている場合は、プリムラでのお預かりはお断りしました。吐いている場合、尿にアセトンが陽性の時は点滴が必要になります。また数日前から発熱があり、診察を受けていない場合も、プリムラにはお預かりはできません。プリムラも利用者が多くなり、様々な想定外の事がありました。基本的なプリムラ利用規則を是非守っていただきたいと思うこともありました。

1月はインフルエンザA型が多く、水痘、風邪症候群の発熱でそれぞれ隔離が必要なために、プリムラの3部屋はフル利用の日がありました。インフルエンザは診断を受けタミフルを内服すると3日目には解熱しますが、登園は解熱後2日間熱がなければ、許可がでます。プリムラでの様子では、熱が落ち着いたように見えても、日中38度近くになり鼻水、咳が多く今ひとつ食欲、元気がないこともありました。

2月前半はインフルエンザA型、中旬以降は溶連菌感染症、発熱、下痢での利用が多くなりました。発熱では迅速診断でアデノウイルス、下痢ではアデノ、ロタウイルスが陽性の場合もありました。発熱38℃～39℃位は元気で過ごせますが、39℃～40℃になると起きている元気もなくなります。保育室ではひたすらクーリング、子供の好みでイオン水、白湯、麦茶、ジュースなどの水分補給に勤めています。日頃保育園に慣れている子供達ですが、初めての場所で体調が優れないときでも、みんな逞しくプリムラに即順応して過ごしています。子供たちが満足して「楽しかった」と帰ってくると、プリムラスタッフも嬉しくなります。

3月プリムラをオープンして丸2年が経ちました。自主事業で

1年、昨年4月から委託事業になり1年が過ぎました。委託事業になり、利用し易い料金になり多くの利用がありました。プリムラは医療機関併設型で病気の急性期でもお預かりをしています。プリムラ入室前の医師の診察とお薬手帳を見れば病状経過が判るために、他の医療機関からの連絡表は必要ではありませんが、お薬手帳も無く、持参した薬、朝飲んだ薬の内容が不明場合があります。また持ち物もバスタオル、着替え、オムツが無かったりする事もありました。プリムラではそのような場合でも事情を察してお預かりは致しましたが、急いでいるお母様にお子様をお預かりするに際して病状を把握する為の必要最低限の時間は余裕を持って頂きたと思いました。前登録を済ませ、家庭からの連絡表を家で記載して来られるとスムーズに入室できます。